

◆帆苺謙治委員 簡単に 1 点だけお伺いいたします。政権が交代して、平成 22 年度でしょうか、農地関係予算が激減したという経緯があるわけでございます。梅谷委員が悪いわけでもないし、上杉委員が悪いわけでもございませんけれども、しかし、それなりに新潟県の場合は、農地部をはじめ、財政当局の理解も得て、ある程度まで復活したという経緯もあります。昨年から今年に至って、大型補正を組んで、そしてまた今年度当初予算で、何とか平成 21 年度並みに戻ったやに伺っております。それらを踏まえて、今後、農地関係予算のありようといいますか、将来に投資するほ場整備等を含めた今後の仕事と連動した中で、若干質問したいと思えます。

まず最初に、平成 24 年度の補正予算と平成 25 年度の当初予算の規模、あるいは内容がどうなっているのか、聞かせてください。

◎坂井武徳副部長(農地部) 農業農村整備事業予算の規模、内容ということで承りました、国の経済対策に伴う平成 24 年度 2 月冒頭補正予算は約 110 億円でした。加えて、平成 25 年度当初予算は、約 227 億円ですので、合わせて約 337 億円の予算を計上したところでございます。これらの予算によりまして、1 点めとしましては、排水機能の安定的な確保のため、農業水利施設の老朽化対策の推進。2 点めといたしまして、意欲と能力のある経営体へ農地集積を促進する経営体育成基盤整備事業の推進。3 点めといたしまして、安全・安心な県土づくりにも資する農地、農業用施設の災害防止の推進を図ることとしております。

◆帆苺謙治委員 先ほども申し上げましたが、政権交代前といいますか、平成 21 年度並みに予算が戻ったのか、その辺も聞かせてください。

◎坂井武徳副部長(農地部) 平成 21 年度並みの予算に戻ったのかという御質問でございます。数字を申し上げますと、平成 21 年度当初予算プラス平成 20 年度 2 月冒頭補正予算を合わせた額が約 307 億円でございます。先ほど平成 24 年度 2 月冒頭補正予算と平成 25 年度当初予算を合わせた額が約 337 億円と申し上げましたので、平成 21 年度の当初予算プラス冒頭補正予算を合わせた金額を超える予算を確保したというところでございます。

◆帆苺謙治委員 30 億円程度伸びているということでございますね。それと、今後、農地部として、予算をどのように投入していくか。この課題がたくさんあると思うのです。ほ場整備については、前面に出して、今までずっとやってきましたよね。そして、補正予算をほとんどほ場整備に投入してきた。当初予算も多分そうだと思います。私の考えですけれども、ある程度、ほ場整備はいい線にはいるのではないかなと思うのです。そうすると、ほ場整備だけではいけない時代も来る。今、整備率が五十何パーセントだったでしょうか。このほ場整備は何年くらいまでにある程度のめどをつけたいというような方針があるのか。この事業はお願いをして実施するという申請事業であります。阿賀野市はなかなか進んでいないというのも確かでございますが、ここに来てやっとその気になって、最後の汽車に乗り遅れてはな

らないぞということで、市役所ではみんな頑張っていますけれども、いつまでもこういうほ場整備があるものとは思っていただけないと思うのです。

そういうことから、一つ聞きますが、ほ場整備は、どの程度でめどがつくのか。今まで推進してきたよりも、少しダウン傾向になっても致し方ないとも思いながら、お聞きしたいと思います。併せて、前は七、八年でできた、四、五年前までは十二、三年もかかっていたということもあります。今はどの程度で終わっていますか。

◎小泉恵達農地整備課長 今ほど委員から御質問の農地部の主要事業でございます、ほ場整備事業の今後の見込みでございますが、これまで地域要望にこたえながら、長工期地区にも配慮しまして、計画的に整備を進めてまいりましたが、結果として、いまだに、整備率は全国平均 63 パーセントに対しまして、新潟県は 59 パーセントと、4 ポイント低くなっております。ただ、今回の平成 24 年度補正予算と平成 25 年度当初予算を合わせました予算規模が、今後とも確保されるということになりますと、数年後には全国並みの整備率に追いつくものと思っておりますし、長工期地区も解消されまして、新たな地域の要望にも、十分にこたえていけるものと考えております。

それから、もう一つの御質問でございますが、工期の長さでございます。数年前までは、約 15 年ということを書いてまいりました。ここ数年間、けっこう整備が進んでまいりましたが、まだ未完了の継続地区が非常にたくさんございまして、その工期が非常に長くなっております。現在、約十二、三年、そのくらいまで短縮されてまいりました。

◆帆苺謙治委員 ついでに聞くわけではございませんけれども、まだ申請してから採択になるまでけっこうあるのですか。それとどの程度、待機組があるのですか。

◎清水俊久農地計画課長 新規の要望状況ということですが、これまでは、大体年間 400 ヘクタール程度を新規採択してきました。今後 3 年間の要望状況を見ますと、大体、年平均 550 ヘクタールくらいになっています。今までより、少し要望が多いということでございます。長工期化も解消されてきたということで、こういうものがこれから確実に採択できるように努めてまいりたいと考えております。

◆帆苺謙治委員 確実にやっているというのはいいのですけれども、申請はどの程度残っているのですか。これからかかるというのは、どの程度なのですか。

◎清水俊久農地計画課長 要望があつて、採択を待ってもらっているという状況は、今はございません。要望のあつたものについては、すべて採択できているという状況でございます。

◆帆苺謙治委員 分かりました。そうすると、いずれにしても、近い将来には、全国並みに行くし、そうするとその先は鈍化しても、鈍化するのは当たり前だろうし、ほ場整備については、ある程度のめどがつきつつあると。今の予算規模でいうならば、そういうことだと理解しました。

それで、自分なりに考えると、今後いちばん問題になるのが維持管理です。ストックマネジメント事業でしょうか。これは、皆さんがおっしゃるには、国営、県営を含めて 1 兆 5,000 億円、プラス団体営

の末端施設まで入れると2兆円を超えるものの維持管理をしなければならないということだと思います。そうすると、例えば、2兆円の財産があるとして、100年などもたないはずだけれども、100年としても、1年間で200億円かかるのです。そうすると、これからの事業は、これがメインになるということだと思います。それには、やはり今、急いでいるようでありませけれども、早く計画を進めなければならないと思うのです。それと併せて、早くやらなければならないのは早くやって、今年度も予算計上されているようではありますが、長期的に計画しながらやっていく必要があると思いますが、それについてはどのようになっていますか。

◎坪谷満久農地建設課長 委員御指摘のとおり、非常に大規模な施設等を多く持っております。そういった中で、今、機能保全計画といいまして、施設の劣化なり、老朽化の状態について機能診断等を行い、その施設がどれだけもつのかということも併せて計画を立てております。その計画の中では、対策の工法なり、時期なり、またどのくらいのお金がかかるということも含めたものを一生懸命やっております。それを集計しながら、長寿命化というところを第一に考えてやっていきますし、また更新の時期も遅らせられるものがあれば、遅らせてやっていくことで、予算を平準化し、またコストも縮減しながら、今、進めているところでございます。

◆帆苺謙治委員 今年度も予算計上した、このストックマネジメント事業を来年度も当然、ある程度上積みしてやると思うのです。そうすると、単年度といいますか、ここ二、三年のやりようについては積算をしていると思うのだけれども、今、申し上げました2兆円の財産に対しての維持管理をこれから中長期的にやっていくということについては、いつごろをめどにまとめようなのですか。

◎坪谷満久農地建設課長 今、県で進めております機能保全計画の策定状況でございます。まず、基幹的な農業水利施設ということで、受益面積100ヘクタール以上のものにつきましては、平成25年度ですべて終わらせたいと思っております。また当然、受益面積100ヘクタール未満のものもでございます。それにつきましても、施設の状況、重要度なり必要性に応じて、随時、3年間の中でできるだけやっていきたいと考えております。

◆帆苺謙治委員 分かりました。補正予算というのは飽くまでも補正だと私は思うのです。補正予算を当てにして仕事を決めるわけにはいかない。そうすると、当初予算額の確保がいちばん重要だと思うのです。補正予算というのは、その先にやろうとするプラスアルファだと思うのです。したがって、当初予算額の確保がこれから大事になってくると思います。優秀な農地部長も来ておられますし、今後の当初予算額の確保について、農地部がどのような姿勢で臨むのかを聞いて、終わらせていただきます。

◎圓山満久農地部長 今、委員から御指摘のありました、当初予算額の確保についてでございます。私どもも、当初予算を一定程度伸ばしていくということは、農地部の仕事を円滑に進めるためには非常に重要だと思っています。例で言いますと、今年の5月も政府要望させていただきましたけれども、通常の前算確保といった要望の中に、あえて当初予算をしっかりと確保していただきたいといった文言を付け加えまして、農林水産省にお願いをしてまいったところでございます。平成22年度以降、当初予算は発

射台が抑えられてきておりますので、また委員の皆様がたの御指導も頂きながら、こういった活動を強めて、一定のレベルの予算確保に努めていきたいと思っておりますので、引き続き、御指導のほどよろしくお願いしたいと思います。